

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年3月18日(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ルカによる福音書23章39節～43節

23:39 十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」 23:40 すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。 23:41 我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」 23:42 そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。 23:43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

説教 『あなたは今日、わたしと一緒に楽園にいる。』

◆私はこの春で、神学校を卒業して伝道師、牧師になって、丸50年になります。そのような者が今更、言うのも恥ずかしいのですが、この聖書という書物は正に『アメージング・ゴスペル』ですね。今日の箇所を読んでいて、つくづくそう思いました。私たちの神様は、主イエス様は、地獄の底にまで降りてきて下さって、私たちを救い上げてくださり、永遠の祝福を賜る御方であられます。

◆「絶体絶命」とはこの犯罪人たちの状態を言うのでありましょう。今やどこにも逃れる術も道もありません。正に「絶体絶命」です。どうにも身をかかわすことはできません。わたしたちはイスラエルの出エジプトの時のことを想起します。エジプトでの奴隷状態から脱出できました。しかし今、前方に紅海が横たわり、後からは、エジプトの軍勢が追い迫り、逃げ道がありません。「絶体絶命」です。しかし、主なる神様は、その海の中に道を切り開かれ、イスラエルを救出されたのでした。

◆39節から41節にこのように記されています。「十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。『お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。』すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない」と。

◆この二人の犯罪人の主イエス様に対する態度、認識の差は、一体どこから生じたのでしょうか。考えられる事は、イエス様をののしった犯罪人は、イエス様の十字架上の第一言を聞かなかったのではないのでしょうか。そして、これをたしなめた犯罪人は、十字架上のイエス様の七言の第一言、即ち「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」とのイエス様の執り成しの祈りを聞いたのです。私たちにおいても、主イエス様の御言葉を聞くか、聞かないか、この一事で、人生は全く変わってしまうのです。そのように、「言葉」は重大な意味を秘めています。ヘブライ語で「言葉」は「ダーバール」と言います。そして「ダーバール」は「出来事」という意味もあります。

なぜなら、言葉が出来事を生じさせるからです。旧約聖書・創世記の冒頭にこうあります。「神は言われた。『光あれ。』 こうして、光があった。」

◆この二人の犯罪人のイエス様への態度は対照的です。先に申しましたように、犯罪人Aは、イエス様の第一言を聞いたのです。そして犯罪人Bは聞かなかったのだと思います。ですから、この犯罪人Aと犯罪人Bの態度の違いは、必ずしも両人の性格、資質の違いによるのではないと私は思います。たまたま犯罪人Aは第一言を聞き、たまたま犯罪人Bは聞かなかったのです。そして、この両人の、聞くか聞かないかの違いは、今申しましたように、両人の性格、資質の違いによるのではなく、偶然だったかもしれません。その時の風向きによって、風下の犯罪人Aには聞こえ、風上の犯罪人Bには聞こえなかっただけかもしれません。或いはその時の、二人の身体状況が違っていただけかもしれないのです。お芝居でも、ドラマでも、映画でも、一つのセリフを聞き漏らすと、後のセリフの意味がよく分らない事がありますね。そのように、言葉が重大な、時には天と地の違いを、天国と地獄の違いをもたらすのです。その一言を聞くか聞かないかで、道は分かれてしまうのです。

◆犯罪人Bをたしなめた犯罪人Aは、イエス様にこう言いました。42節です。『イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください』と。するとイエスは、『はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる』と言われた。『十字架上の七言』の第二言です。文語訳ではこうなっています。『イエスよ、御国に入り給ふとき、我を憶えたまへ。』イエス言い給ふ。『我、誠に汝に告ぐ。今日なんぢ我と偕にパラダイスに在るべし』と。第一言を聞いた犯罪人Aは、『はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる』という、第二言をも聞くことができました。ところで、ここに「樂園」と訳され、「パラダイス」と言われているのですが、皆さんはこの言葉にどのようなイメージを描かれますか。色々なイメージを描かれると思いますが、私は、樂園の絶対条件は、「主イエス様が共にいて下さる」ということだと思います。他に何があっても、この一事を欠くならば、そこは結局、樂園ではありえません。しかし主イエス様が共にいて下さるならば、それだけで幸いであり、そこが樂園なのです。絶体絶命の十字架も樂園と化するのです。

◆それならば、犯罪人Bは、イエス様の十字架上の第二言、「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」との御言葉を聞く事ができたでしょうか、出来なかったでしょうか。わたしは、犯罪人Bも第二言を聞いたと思います。犯罪人Bは、犯罪人Aとイエス様の対話を聞いたと思います。そして、十字架の下のローマの百人隊長も、これらの対話を聞いたのです。そして、「百人隊長はこの出来事を見て、『本当に、この人は正しい人だった』』と言って、神様を賛美したのです。この百人隊長はアメージング・グレース、アメージング・ゴスペルの真の証人ですね。真実な証しは、支配国と被支配国、死刑囚と死刑執行人の違いを越えて、人々の魂に救いを、永遠の慰めをもたらすのです。これぞアメージング・ゴスペル！これぞアメージング・グレースですね。

◆ところで23節と24節の犯罪人Aとイエス様の対話の言葉をもう少し、詳らかにしなければならぬと思います。「23:42 イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。23:43 するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われました。Aは「『イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください』と行った。」これは以前の口語訳では、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出して下さい」と訳されていました。主が共にいますことが絶対条件！

◆この両訳にはいくつかの意味合いが込められているように思います。犯罪人Aにとっては、イエス様は「権威者」なのです。死をもって終わる地上の権威者ではなく、死を越えた御国の権威者であるのです。「イエス」というお名前は、「キリスト」が「油注がれた者」という称号で、王・祭司・預言者を指すのに対し、「イエス」は固有名で、「神の救い」「救いの神」を意味します。犯罪人Aは、今や、地上の一切を失います。しかし、今、御国に凱旋されるイエス様、やがて御国の権威をもっておいでになられるイエス様、この御方の御心の片隅にでもこの自分を止めて頂けるなら、これに勝る、これに代わる幸いはないとの思いがにじみ出ています。犯罪人Aさんは、第一言の主・イエス様に、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」との、執り成しの祈りをなさって下さる主イエス様に一切をお委ねしたのです。そこに、永遠の救いがあります。

◆福音書には、イエス様がありとあらゆる病をいやされたことが記されています。しかし、個々の例が具体的に記されているわけではありません。しかし、わたしは、今日の十字架のイエス様と犯罪人Aさんとの対話の描写は、イエス様の「いやし」の具体的な描写だと思えます。そして、次週読みます、今日の次の箇所47節にこう記されています。「百人隊長はこの出来事見を見て、『本当にこの人は正しい人だった』と言って、神を賛美した」と。十字架上の七言の証人として、一番可能性が高い人物は、このローマの百人隊長ですね。そして、彼の証言がなければ、主イエス様の十字架の姿は知られないままで終わったかもしれないのです。

◆イエス様の第一言によって救われた人の証しをいたします。「小林多喜二」さんにかかわることです。「蟹工船」などで知られるプロレタリア作家の小林多喜二さん(1903年12月1日～1933年2月20日)は秋田県出身です。先に北海道小樽に渡っていた伯父さんの招きで北海道にわたり、今の小樽商大を出て、銀行マンになります。そして作家へと転身するのですが、その作品が国家批判的であったとして警察に捕らえられ、東京の築地署で拷問を受け、虐殺されます。若干29歳でした。その小林一族が小樽から苫小牧へと販路を広げ、「三星」という屋号で盛んなパン・菓子店をしておられました。そして私の苫小牧教会時代に、小林多喜二さんの従兄さんに洗礼を受ける巡り合わせになりました。受洗に際して、その従兄さんが言われました。「無実で、冤罪で、自分が処刑されながら、『父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです』と祈ることが出来る人は、只の人で

はありませんよね」と言われました。この告白を受けて病床洗礼式を行なったのです。どのような事情にせよ、その一族から虐殺された者、死刑囚、自殺者が出たとすれば、その一族全体が暗雲に覆われます。そしてそれは長く続き、晴れません。しかし、主イエス様の執り成しの祈りは、人の魂をいやして下さるのです。そして、恨みが赦しへと変化するのです。

◆先日、ある人から、短いものですが、このような手紙をもらいました。「おはようございます。お手紙ありがとうございます。彼女も皆様の言葉を読んで、感涙しておりました。やはり人に大切なのは、神の御言葉と人の情ですね。感謝しております。カムサハムニダ！」短いお手紙ですが、言い尽くされていると思います。正にイエス様の十字架上の御言葉は、神様の御言葉であり、人の情に満ち溢れていないでしょうか。私たちの魂をいやして下さる御言葉です。神様は人間のどん底まで降りて来て下さいます。イエス様は、生き地獄にまで降りて来て下さり、全ての病をいやして下さいます。

●最後に少し長いですが、使徒パウロのフィリポの信徒への手紙を読みたく思います。フィリピ書2章1～11節です。「02:01 そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、02:02 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。02:03 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、02:04 めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。02:05 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。02:06 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、02:07 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、02:08 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。02:09 このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。02:10 こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものが全て、イエスの御名にひざまずき、02:11 全ての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」

◆お祈りいたします。

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。

あなたは常にわたしたちを顧みて下さり、常に最善の道を備えていて下さいます。どうか、主イエス・キリストにおけるあなたの恵みの証である、この聖書から離れることなく、常にあなたが私たちと共にいてくださることを片時も忘れることなく、試練の中にもあなたの変わらぬ導きのある事を信じて歩むことができますよう守り、導いて下さい。どうか、今試練の中にある兄弟姉妹たちを、あなたが顧み、支え、導いてください。この祈り、イエス様の御名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。